

市長（作野広昭君）

大型プロジェクト事業推進についての御質問ですが、まず北陸新幹線（仮称）白山駅の整備につきましては、今後、期成同盟会の中で検討を進めることとしており、在来線新駅につきましても国・県・JR西日本等と調整中であります。

また、野球場の整備につきましては、議会で慎重審議をいただいた中で、整備に向けた環境を整えば、事業費をお示ししたいと思っております。なお、詳細については、後ほどそれぞれの担当部長より答弁をさせます。

これらのプロジェクトについての概算の中長期計画を明示してほしいとの御質問であります。現在の中長期計画ではこれらの事業については項目のみを掲載しております。今後、事業の実施時期、その規模や事業費が決定した段階で将来の財政運営に与える影響等も十分に勘案した上で順次中期計画に掲載してまいりたいと考えております。

次に、雑誌記事にありますように、市の抱える多くの公共施設をこのまま将来にわたって維持管理していくことは、財政的に極めて厳しいものがあります。

議員御指摘の公の施設についてであります。地方自治法では「住民の福祉を増進する目的をもって設けるものであること」など、5つの具体的要件を満たすものを公の施設と位置づけております。基本的に地方公共団体が建設した施設は、一部を除けばそのほとんどが公の施設ということになります。

本市は8つの自治体が合併して誕生したことから、同様の公共施設が数多く存在しており、維持管理に係るコストを削減するためには、既存施設の整理・統廃合や管理運営の見直しは避けて通れません。

しかしながら、白山市の将来の発展を考えますと、新幹線の白山駅や在来線新駅の整備は、既存企業の事業拡大や新たな企業の進出、雇用の場の創出による定住促進、さらには観光誘客の拡大、物品販売の増加など、中長期的に経済の発展が期待され、その結果、必然的に税収が増加し、市民の利便性の向上も図られます。

したがって、市の財政基盤を強固にするためにも、新幹線白山駅等の整備は必要と考えております。また、野球場についても相木野球場の代替であり、利用率も高いことから必要な施設であると考えております。

今後におきましても、これらの公共施設の配置バランスや必要性

を十分考慮しながら、公共施設の再編整備に努めてまいりたいと考えております。